

防災歳時記 (3)

—立木が泣く—

NHK 放送用語委員会専門委員

元 気象庁天気相談所長

宮澤 清 治

日本の最寒地

北海道北部の稚内より 100km ほど南に音威子府という村がある。酪農と畑作が盛んで、林業資源も豊かである。木工インテリア科もあるユニークな高等学校もある。

音威子府(おといねっぶ)とは、アイヌ語で“川口のにごる川”という意味だそうだ。

日本の最低気温のランキングは

- ① 美深(びふか) -41.5℃(1931. 1. 27)
- ② 上音威子府 -41.3℃(同日)
- ③ 母子里(もしり)-41.2℃(1978. 217)
- ④ 旭川 -41.0℃(1902. 1. 25)

これをみると、旭川から北のほぼ100km圏内は日本の最寒地と言える。

道なき道を毎日歩き、特に冬は一帯の雪原を探り足で通いました。

物心のついたころ、立木がバーンという音がして立ち割れたと聞きました。しばらく経ってから山へ行ってその原木を見たところ、トドマツが眞つ二つに割れていました。その後、注意深く観察したら、気温がマイナス30℃以下ぐらいになれば毎度割れることがわかり、いまではほとんど気にならなくなりました。」

生きたトドマツなどの大木が立ったまま、はじけるような音をして裂ける現象を「凍裂」と言う。地元では「立木が泣く」と言う。北海道の陸別町や母子里などでも、明け方

立木が泣く

音威子府の元村長の中原彰さんから、かつて次のような便りを頂いた。

「私は45年前までは、上音威子府に住んでいて、小学校へは5km、高等科のある音威子府までは10km



写真1 音威子府の市街地



写真3 「日本最寒の地」のモニュメント

母子里は周囲が高さ数百 m の山に囲まれた盆地にある。快晴無風の夜、放射冷却で冷やされた空気が盆地のナベ底にたまり、寒さが一層厳しくなる。

マイナス 30℃以下のそんな日、空気中の水蒸気が凍って、太陽に反射し、いわゆるダイヤモンド・ダスト(細氷)となって輝く。

世界で一番寒い所(寒極)は、日本の北方のロシア連邦・サバ共和国にあるオイミヤコン(63° N143° E)という町である。ここにも世界一寒い町を誇りにしたモニュメントが建っている。「1933年2月6日にマイナス71度2分の世界一の寒さを記録した」と書いてある。

「鉄をも割れるという厳寒のとき、小用は大丈夫かと尋ねられた。マイナス 60℃で体験した結果、全く異常がなかった。しかし機敏に行わないと恐らく危ないのではないだろうか。金属のチャックを素手で触ると、たちまち凍傷になるので細心の注意が要る」とは、オイミヤコンを訪れたNHKカメラマンの話。

女が髪を洗うと火事が多い

昔の天気のことわざである。・北西の季節風が吹くと、日本海側では雪が降り続くが、太平洋側では晴天が続く空気が吹く。空気がカラカラに乾いて、風がホコリを巻き上げる。ホコリのため女性たちが髪をよく洗うのを見て、われわれの先祖は火の用心に意を用いたのである。先人の鋭い観察である。

2月初めの立春が過ぎても、2月半ばを中心に寒さの厳しい日が多い。寒さや火災に対する備えも十分にしたい。